

学校夜間釜ヶ崎(仮称)第1回

11.20 今晚7時より「希望の家」一階にて——
テーマ『越冬をどうするか』

殺られる前に皆で考えよう！

今年も日一日と暮が近づくにつれて
「越冬」をどうするか考えざるをえな
くなってきました。

どこかのエライサンが言うように、日
頃から貯金ができれば誰れも苦労はし
ない。

かと言って、「越冬」は組合や、キリ
スト教にまかせておけばよいというも
のでもない。

「越冬」は、一人一人どうするかと
いうことと同時に皆でどうするかとい
うことが問われています。

皆良く知っているように、釜ヶ崎では
年商三〇〇万もの仲商が行旅病死とい
うことで、実際は殺されていっている。

中でも十二、一、二の三ヶ月に集中し
ています。

一方大阪市も毎年、南港に臨時無料
宿泊所を設けていますが、これは無料
宿泊所とは名ばかりで、実際は隔離収
容所に他なりません。

そしてこの臨時宿泊所が、なんら根本
的な対策になっていないことは、臨泊
南設期間中に釜ヶ崎で青カンをする仲
商が最も多いことが良く示しています。

このように我々が冬地獄の中で苦し
まなければならない根本の原因が行政
にあることは言うまでもありません。
しかし、いつまでも行政の重い腰が上
がるのを待っている訳にはいきません。

以上の段よりつづき

越冬資金を稼ぐ為に、そろく飯場に行
く準備をしている仲商もいると思
いますが、黙って野たれ死にさせられる
のではなく、皆で生き残る為に話しあ
いたいと思います。是非多くの仲商が
参加して下さい。

「夜間学校」

「これからの予定」

12月4日(木) 第12回

テーマ『人夫出し、そのⅢ』

12月18日(木) 第13回

テーマ『越冬と病気』

12月24日(水)

『クリスマス・パーティー』

希望の家族楽屋と一諸に——。

※時間はいずれも午後7時からです。

細かい内容は、おって知らせます。

(仮称)釜ヶ崎夜間学校ニュース

第10回報告 テーマ「人夫出し(その2)」

困ったときは助け合わんとしかんレ

団結せなあかん。

11月6日の報告

「人夫出し」は弱い立場にある労働者につけこみ、ピンハネや賃金未払い、労働条件違反に暴行事件まで起している。何とかならんのか、が、一昨日の夜間学校で語り合われました。それに引きつづき、先回十一月六日は、職場の「制度」として存在している「人夫出し」がどのような状況にあり、出てきたかという歴史を考えたが問題を出しました。

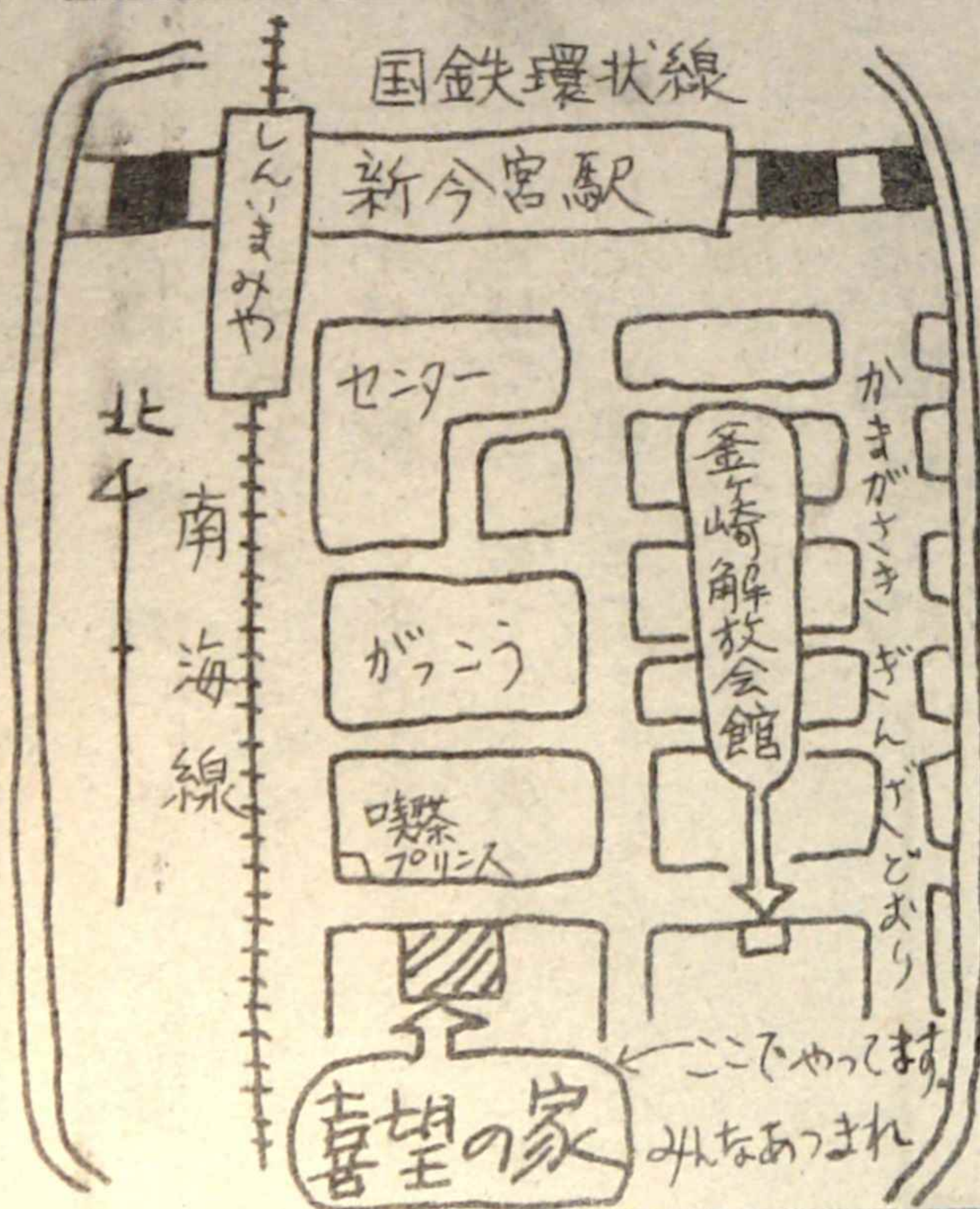
人夫出しの歴史

江戸時代は石川島人足寄場にみられる囚人の労働がありました。そして人夫出しの初まりは、講談でおなじみの播磨屋長兵衛などにみられる口入れ稼業からです。明治時代に入って北海道では囚人により原野が開墾されていき、九州では囚人によって石炭が掘られて

いきました。やがて政府の富国強兵にともなう監獄部屋リタコ(他屋)一部屋が全国の建設・土木現場、飯場や炭坑にはびこっていったのでした。そこでは、暴力で強制労働をさせ、外出や手紙を出させず自由行動がなく、食事もろくなものを与えない状態で、一度そこへ入ったら二度と帰れないと言われていました。何回かの法的な規制と巧みようにくぐりぬけ「人夫出し」は依然として残されてしまいました。日本のは発展を底辺でがっちり支えたのは建設・土木現場の労働者ですが、その苦勞も大変なものでした。

*人には人情がある。
あんまりえげつなく
してもういたくない*

当日は、ほとんど参加者全員が、それらの経験で話が出されました。



「セニターは何のためにあるのか。六千円では今やっていけない。日七千円以下はあかん」と厳しく最低を示すなあかん。直接元請が雇えばピンハネされず賃金は高いはずや。」「もっと日生の声を知らさんとしかん。」「困った時は助けあわんとしはんし、団結せなあかん」と。

みんながつくるみんなのひろば

「(仮称)釜ヶ崎夜間学校」

運営委員会準備会

釜ヶ崎希望の家内
でんわり六四七―三九四六
(毎週木曜日夜七時から九時の間)